



出会い・ふれあい・語り合い
～みらいよりあい～

R7 北小校区 トライアル ④

持続可能な地域の仕組み・組織検討のための チーム活動の「発表会」を開催しました。

10月11日（土）の午前中、くすのきの家で今年度4回目の「未来寄合トライアル（北小校区）」を開催。参加者は、ゲストと市民参加者、事務局スタッフを含めて21名でした。この日は、「トライアル発表会」。持続可能な地域の仕組み・組織を検討するため、4チームに分かれて自主的に行ってきた取り組み・活動の中間報告を行い、ふせんを使ってその発表に対する「評価」や「改善へのアドバイス」を送り合いました。また休憩を挟んで後半は、各チームの活動・提案テーマのうち関心のあるテーブルにつき、持続可能な地域のあり方やその実装化に向けて意見交換を行いました。

テーマ：トライアル発表会～地域のあり方検討①

1. あいさつ

これからますます地域の役割が大切になる中で、人と人とのつながりが希薄化してきている。なんとかしなければという思いで、3年前から未来寄合を始めました。

この先どうするか、行政からの押し付けになってはいけないうので、多少時間をかけてもみなさんと一緒に話し合う場を重ねてきました。今日の発表を基に、じゃあどうしていこうか、考えていきたい。

岩倉市は県内で一番面積が小さいまち。人と人との距離が近い。その特色が出るような取り組みをしていけたらと思っています。



久保田市長

2. トライアル発表会（当日の発表順に掲載しています）

グループ

3 チーム名：まちサボ 「外部連携 わくわくパフォーマンスアップ！」

目指すビジョンは、未来と人をつなぐ架け橋のプラットフォームづくり。人口が減少していく中、今まで普通にできていたことが人手不足でできなくなっている。そこで、祭りを活かしながら地域づくりをできないか、そして、スキルのあるまちのプロボノや商工会青年部などを「お助けマン」としてマッチングし、祭りをやりたい人のお手伝いをしていけなうかと考えました。



現在、困りごと発掘のために、老人クラブへのアンケートや、地域行事の取材をしています。

また、プロボノの発掘に取り組み、マッチングにつなげたいと思っています。

グループ

4 チーム名：つながり隊 「引き継ぎお助けプロジェクト」



区の役員のなり手を増やすため、「不安」と「負担」の軽減がプロジェクトの目的。まずは引き継ぎの実態を把握するためにアンケートを作成し、各区長に郵送。今、回答を集めているところです。この結果をもとに、サポートが必要だと思われる区にはさらに

ヒアリングをして問題点を抽出。入手した中本町区の引き継ぎ資料やアンケート・ヒアリングの結果をもとに、「引き継ぎマニュアル」のフォーマットを作成しサポートしていきたいと思っています。

アンケートの中間結果（10月6日時点で28区中、15件の回答）からは、引き継ぎのための説明資料（マニュアル、手順書、要領書等）が「ある」と答えた区が11件と、意外に多いことがわかりましたが、引き継ぎで不安は「まったく解消されなかつた」「あまり解消されなかつた」という回答が7件あるので、そこがこれからのポイントになると思っています。また、「引き継ぎのサポートを必要とするか？」の問いに「必要」（1件）「内容次第では必要」（3件）と回答があったところをサポートをしていこうかなと思います。

また、業務負担を減らすため、「効率的な引き継ぎ方法」を検討していこうと考えています！



発表を聞いて書かれた「評価」「改善」カード

自分たちが参加することでまちをつくっていかうという思いからプロジェクト名を付けました。スマホは世代を超えた共通の話題。スマホをきっかけに、参加することで地域に関心を持つきっかけにしたい!また、スマホに苦手意識を持つ方をフォローすることで、町内会の負担軽減につなげたいと思いました。



そして8月30日(土)西市町の公会堂で、ゆうわ会の役員さんの協力でスマホ体験教室を開催。10人の参加者に、スマホや LINE の使い方や市公式 LINE と結ネットを紹介。単に教える・教わるだけでなく、楽しく会話をしました。

教える側は役に立てた喜びが地域 DIY につながるけれど、教わる側を地域 DIY につなげるためには、ちょっとした会話の場づくりが大事。対話が日々の困りごとの把握や解決につながる可能性を感じ、参加した人が「こんなこと教わったんだよ」と近所で伝えれば地域DIYの一員になるのではないのでしょうか?



岩倉市で結ネットの導入が広がらない背景には、役員の高齢化、デジタルへの苦手意識、

負担感、不安があると考え、これを和らげるために3つの解決策を実施しました。

1つめは、結ネットのわかりやすいチラシを作成し、8月の区長会で紹介。2つめは、役員に向けたデジタル講座を実施。

3つめは、若者の力を借りたい!と、岩倉中で全校生徒に対して町内会に対するアンケートを実施したあと、9月に8人の中学生が参加して、町内会の在り方を考える「岩中寄合」を開催。この寄合参加者のアンケートで、「町内会の大切さがわかった」、「自分達も関われると思った」という感想が寄せられ、町内会活動が次世代につながる手ごたえを感じました。

今後は更に、若い世代が自然に関われる場を広げ、町内会の持続可能な仕組みをつくらせていきたいと思っています。

3.ワールドカフェ「地域のあり方検討①」

4チームの活動・提案から自分の関心のあるテーブルにつき、持続可能な地域のあり方やその実装化に向けて「実装化を推進するもの」や「実装化の阻害要因」、「解決・工夫のアイデア」についてふせんを出しながら意見交換。途中テーブルチェンジをして全2ラウンドの話し合いをしたあと、各テーブルのホストから話した内容を全員に紹介しました。



スマホで地域 DIY

結ネットがなかなか広がらない現状の中、LINEのオープンチャットで相談できる仕組みをつくったらどうかという話がありました。また、場づくりを誰が企画していくかが課題。成功体験を大事にしたい、学生と協力すると継続できるかもしれないという意見もありました。



外部連携

今後いかに具現化していくかが課題。どう人員確保し、どう行動していけばいいか。困っている課題から人集めする一方で、私が助けます、アイデアがありますという人達の枠をどう広げていくか。何ができますか?と普通に聞いても本音が出ないので、出会いの場、サロンやイベントで吸い上げていきたい。



いろんなヒントが出てきました。これを誰がやっていくのか。人なのか組織なのか。引き続きみなさんにいろんなお知恵をいただけたらと思います。

町内会 DX 編集部 世代間がつながっていない。地元愛を育てていくなら、中学生のうちはいい。こちらから乗りこんで、町内会やデジタル化について

話していくという話がありました。また子ども会の参加が少ないので、結ネットでも子どもが参加できる活動の発信をするという気付きもありました!



引き継ぎお助けプロジェクト

マニュアルは思ったより多くの区にあり、そのマニュアルを充実させることができるということがわかった。マニュアルは図でわかりやすかったり、デジタル版のマニュアルを作るといい!などの意見がありました。また、引継ぎの方法についても考えた方がいいのではないかと意見も出ました。



ひとことアンケートより

世代間の交流やつながりが地域運営のカギなのではと思いました。色々な方とお話できて楽しかったです/こんなに意識高く生活している人、グループがあり、活動を活発にされていると感じました。ご苦労様です! /仕組みさえできれば、未知の可能性を秘めていると感じました/今後誰が(人や組織)実践していくのが大切 ほか

岩倉市役所 協働安全課(須藤・植手)

TEL (0587) 38-5803

FAX (0587) 66-6380

✉ kyoudouanzen@city.iwakura.lg.jp